

“懸念” から “期待” へ

2012年10月18日(木)

第一生命経済研究所 経済調査部
副主任エコノミスト 藤代 宏一
TEL 03-5221-4523

15:09 現在

<主要株価指数>

	終値	前日比
日経平均株価	8982.86 円	176.31 円
TOPIX	752.3 pt	12.51 pt
NYダウ	13,557.00 ^{ドル}	5.22 ^{ドル}
DAX (独)	7,394.55 ^{ドル}	18.28 ^{ドル}
FT100 (英)	5,910.91 pt	40.37 pt
CAC (仏)	3,527.50 pt	26.56 pt
上海総合※	2,131.27 pt	25.648 pt

<外国為替>※

ドル円	79.13 円	0.16 円
ユーロ円	103.73 円	0.17 円
ドルユーロ	1.3108 ^{ドル}	▲0.001 ^{ドル}

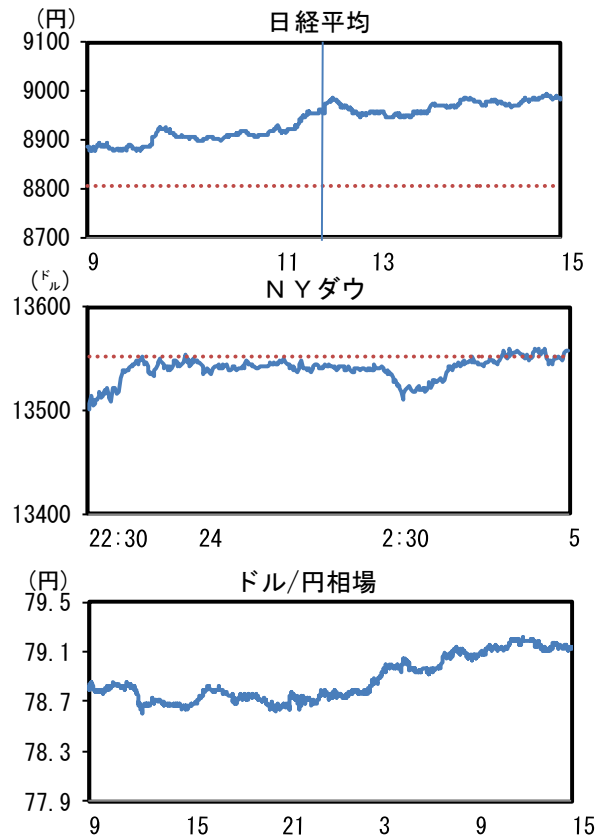
<長期金利>

日本※	0.790 %	0.020 %
アメリカ	1.819 %	0.100 %
イギリス	1.916 %	0.096 %
ドイツ	1.634 %	0.091 %
フランス	2.253 %	0.042 %
イタリア	4.768 %	▲0.169 %
スペイン	5.467 %	▲0.338 %
オーストラリア	3.120 %	0.094 %

<商品>

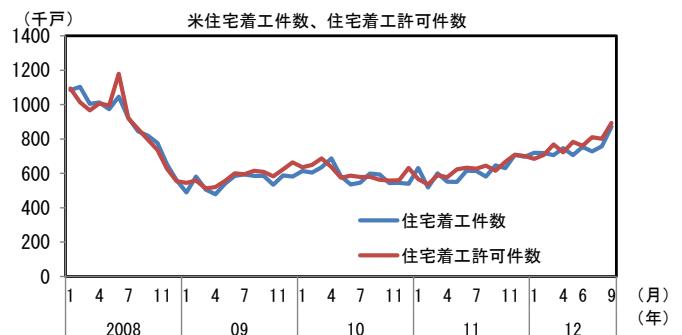
NY原油	92.12 ^{ドル}	0.03 ^{ドル}
NY金	1751.50 ^{ドル}	6.80 ^{ドル}

※は右上記載時刻における直近値。図中の点線は前日終値。



【海外株式市場】

17日の米国株式市場、NYダウは小幅ながら4日続伸。前日比+5.22^{ドル}の13557.00^{ドル}で取引を終了。米経済指標が好感されたものの、決算内容が嫌気されたIT大手株の下落が指数全体を下押ししたことから、小幅続伸にとどまった。住宅着工件数は、(季節調整済年率換算)87.2万戸と市場予想(中央値:同77.0万戸、予想レンジ上限:同80.0万戸)を大幅に上回る強い内容となった。この水準はリーマンショック直前の2008年7月以来の高水準となる。同時に発表された住宅着工許可件数も同89.4万戸と市場予想(中央値:同81.0万戸、予想レンジ上限:同85.0万戸)を大幅に上回る好内容で、住宅市場の持ち直しペース加速を示唆した。一方で相場の重石となったのが、IT大手株の下落だった。前日に発表された決算が嫌気され大幅下落、一銘柄でNYダウ平均株価を約80^{ドル}下押しした。



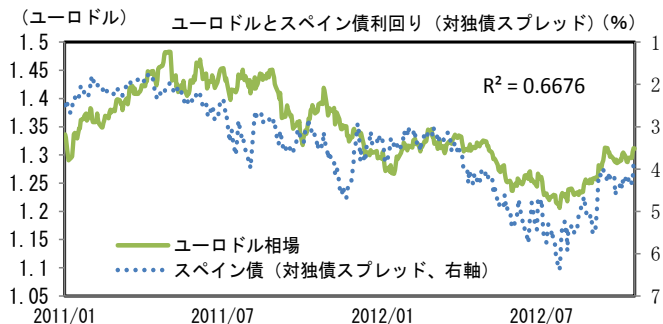
(備考) Bloombergより作成。季節調整済年率換算値。

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

【外国為替相場・債券市場】

17日の外国為替相場では、ユーロがドルや円に対して買われる展開となった。スペインの支援要請が近いとの見方が強まっていることに加えて、スペイン国債の格付け据え置きを背景にスペイン国債の利回りが急低下したことから、ユーロを買う動きが加速した。欧州債市場では、イタリア国債の利回りが低下、ドイツ国債の利回りは上昇した。

ドル円相場は、米長期金利が上昇したことから日米金利差の拡大が意識され、円が売られる展開となった。米10年債は続落、10年債利回りは1.82%と約1ヶ月ぶりの水準となった。ドル円相場に関しては、日米金利差に為替がさや寄せする格好で、もう一段の円安がありそうだ。



(備考) Bloombergにより作成。右軸目盛り逆転。



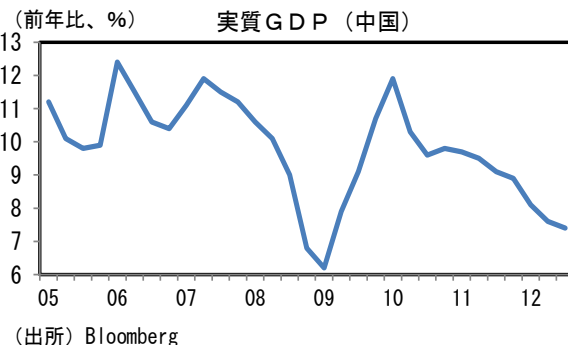
(備考) Bloombergにより作成。

【国内株式市場】

18日の東京株式市場、日経平均株価は大幅続伸。前日比+176.31円の8982.86円で取引を終了。この4日間での上昇幅は約449円となった。前日の欧米株式市場が総じて堅調な展開となった流れを引き継いだことに加えて、為替の円安が好感され輸出関連株中心に幅広い銘柄が買われる展開となった。午前11時に発表された中国の7-9月期GDPは前年比+7.4%と市場予想どおりの結果となったが、同時に発表された9月鉱工業生産、小売売上高、都市部固定資産投資が総じて堅調な内容となったこと等から中国株が上昇、日本株も一段高となった。中国のGDPに関しては、下振れリスクが事前にかなり織り込まれていたため、アク抜け感から買いが優勢となった。業種別では、保険業、卸売業、その他金融、証券・先物が上昇率上位。非鉄金属、輸送用機械、機械、電気機器、精密機器などの輸出関連株も積極的に買われた。内外需問わず幅広い銘柄に買いが入り東証33業種全てが上昇した。

【注目点】

10月入り後、米経済指標で市場予想の上振れが相次いでおり、米経済の減速懸念が後退している。更にスペインを巡る不安が後退したことで、欧州の先行き不透明感も和らいでいる。加えて本日発表された中国の経済指標も総じて明るい内容となった。7-9月期GDPは前年比では+7.4%と前期(同+7.6%)から減速しているが、前期比では+2.2%と前期(+2.0%)から加速している。本日公表された鉱業生産指数、小売売上高、都市部固定資産投資が総じて堅調な実績となった事に加えて、先に公表された貿易統計でも輸出入の再加速が示唆されるなど、中国経済の底打ちサインが数多く出ている。回復の後ずれが懸念されていた中国経済だが、今後は期待感を持っても違和感はないだろう。



(出所) Bloomberg

【NYダウ・日経平均株価予想レンジ(5営業日以内)】

NYダウ 13300~13700^{ドル}

日経平均株価 8650~9100円

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。